1 香川県三豊市（みとよし）

地元食材の提供・活用　6次産業化　女性・高齢者の活躍

大地と語り合う会

～農業はいのちと語り合う営みである～

「大地と語り合う会」結成時のメンバー

ボイセンベリーの商品　果汁・ジャム

経　緯

○安全で安心、美味しいと喜んでもらえる野菜や果物を作りたい地元農家の主婦達が集まり、「大地と語り合う会」を結成。
○休耕地の有効利用、地域活性化、高齢化社会に役立つ農作物として木イチゴの一種である「ボイセンベリー」の栽培を開始。

取組内容

○ボイセンベリーや野菜栽培は、減農薬または栽培中農薬不使用で取り組む。
○定期的な勉強会や情報交換を通じて、地域の環境に適した施肥設計を完成。
○ボイセンベリーの冷凍果実、100%果汁、ジャムなどの加工品を出荷販売し、加工品の残渣も化粧品等の原料として販売。
○平成29年に新たな加工場、直売所兼カフェを建設。

活動の効果

○野菜や加工品の販売及び各種イベントへの出店を年間90回実施（平成29年）。

○海外でのボイセンベリー栽培の研修を実施し、三豊市の「ボイセンベリー栽培マニュアル実施要領」を作成（栽培技術の向上に寄与）。

応募団体からのアピール・メッセージ

休耕田の活用と若者達とのボイセンベリーや野菜栽培に心を繋ぎ、「心の豊かさ」を求めて今後もいろいろな分野に挑戦していければと考えています。

三豊市財田町　Tel：0875-67-2581

2 香川県観音寺市（かんおんじし）

農林漁業・農山漁村文化体験 | 自然・景観・伝統・継承 | 食育・教育

油井水土里保全組合（ゆいみどり）

～各種団体の連携、協力による農村環境づくり～

うがみ神社境内での三世代交流の花見の会

広庄池（ひろしょういけ）の植栽

経　緯

○圃場整備をきっかけとして、高齢化や混住化に伴う遊休農地の解消と、江戸時代から受け継いできた広庄池等水資源の維持管理を図る。

○新興住宅地の若い世代の協力を得て地域全体の環境活動とするため、農地・水・保全活動への取組。

取組内容

○広庄池の堤防にスイセン、ヒガン花、堤外には萩、アジサイを植えて管理。水路法面には、センチピートグラスを植栽し雑草防止、法面侵食防止を図り、定期的に水路清掃を実施。

○旧五兵池に梅、桜、藤、つつじを植栽し公園化。また、ビオトープ（500㎡）を造成し、ホタルの幼虫と餌となるカワニナを放流。

活動の効果

○自治会、老人会、自治消防団、婦人部、子供会、水利組合、油井水土里保全組合など各種団体の連携を図り、協力体制を構築のうえ様々な保全活動に取り組んだ結果、地域の環境づくりに役立っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

美しい農村環境と様々な遺跡・伝説・それらを育んだ地域資源を守り、環境を重視した住みよい、楽しい地域づくりを、これからも実践していきます。

観音寺市柞田町乙2780-2　Tel：0875-25-2292

3 香川県小豆島町（しょうどしまちょう）

農林漁業・農山漁村文化体験 | 自然・景観・伝統・継承 | 地元食材の提供・活用

小豆島町中山棚田協議会（しょうどしまちょうなかやま）

～先人の汗の結晶を未来へ継ぐ「中山千枚田」～

復活した伝統行事「虫送り」

稲刈り作業に参加した中山棚田オーナー

経　緯

○中山千枚田では、耕作者の高齢化と後継者不足が進み、エリアの3割が耕作放棄地となり、地区住民は将来を危惧していた。
○文化の源である中山千枚田を守るためにアドバイザーに農村工学研究所を迎え、住民主体のワークショップ等を通じて、「棚田の村構想」を打ち立て、取り組み主体として設立された。

取組内容

○平成25年に日本とインドネシアの6大学による農業体験プログラムをきっかけに、学生たちによる「棚田の会」というプロジェクトが立ち上げられ、ボランティアの受け入れや棚田の耕作体験の支援を実施している。
○平成26年度から棚田オーナーを募集し、棚田での耕作作業・伝統行事などに多くの方に参加していただいている。
○平成27年度から、地元の酒造会社と連携し、酒米の耕作に挑戦している。

活動の効果

○地区外の人たちとの交流により、外部の視点から意見を聞く機会が多くなり、今まで気が付かなかった棚田の魅力に気づき始め、地元住民が棚田の文化を守らなければいけないという意識が強くなってきた。
○休耕田や耕作者不在の田で、オーナー制度や酒米づくりを実施することにより、休耕田の解消・予防につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

高齢化により離農される方から、担い手へのスムーズな引き継ぎや、休耕地の復田により、先代から受け継いできた棚田を守っていく仕組み・体制づくりの構築を目指す。

小豆島町片城甲44番地95　Tel：0879-82-7026

4 香川県まんのう町（ちょう）ほか

自然・景観・伝統・継承

食育・教育

その他（農業振興・地域の活性化）

満濃池（まんのういけ）土地改良区

～先人の英知と技術により守り継がれる満濃池～

毎年6月に催される「ゆるぬき」

小学生たちの学習の場としても人気

経　緯

○毎年6月に行われる「ゆるぬき」には、多くの観光客が訪れ、讃岐路に夏の訪れを告げる風物詩となっている。また、ため池百選など多くの称号を得ている。

○満濃池の歴史と先人たちの偉業を広く伝えるため、ボランティア団体などの文化活動を支援。

取組内容

○NPO法人「さぬき夢桜の会」が実施する桜の植樹活動と連携して、湖畔遊歩道などへ植樹用地を提供。

○県下小学校では郷土学習の一環として満濃池の歴史を学習。社会科見学に毎年多くの子どもたちが訪れる。

○JICA研修によるアジア・アフリカ地域の技術者の他、県外の土地改良関係団体の現地視察を受入れ。

活動の効果

○ボランティア団体を中心に、満濃池周辺の森林や公園への桜の植樹活動、学生や観光客への歴史ガイド、湖畔コンサート及び健康マラソン大会の開催など、満濃池を核とした活動も活発化しており、地域社会における観光資源とともに文化的シンボルとして大きな存在感を示している。

応募団体からのアピール・メッセージ

満濃池の文化的価値を高める活動を支援しており、土地改良施設の持つ多面的機能を広くPRするきっかけとなることを期待している。

琴平町榎井500-1　Tel：0877-75-3157

5 香川県観音寺市（かんおんじし）

国内観光客の誘致 | 自然・景観・伝統・継承 | 地元食材の提供・活用

五郷（ごごう）里づくりの会（さと）

～「GOGO五郷！」 －文化は山から降りてくる－～

水車小屋・あずまやで総会とBBQ大会

里山歩きツアー（豊稔池）

経　緯

○人口減少や高齢化が進む中、平成17年の市町合併による「五郷の地名消失」や平成20年の「五郷小学校の廃校」による地域のつながりが消失する危機。
○地域コミュニティの存続が危ぶまれる中、平成23年、地域活性化活動の母体となる「五郷里づくりの会」を発足。

取組内容

○平成24年度春と秋に地区の歴史・地理等を説明しつつ散策し、伝統料理でもてなす里山歩きツアーを開催。本年度は5コースで7回実施。
○そば打ち・みかん狩り体験や人気の「コンニャク」作り等、地元の自然や農産物を活用した各種イベントの開催。HPやSNSでの情報発信。
○平成25年に地域活性化のシンボルであり伝統文化の継承施設として「五郷水車」を復活。平成28年4月に地域の活動拠点として「あずまや」を併設。

活動の効果

○里山歩きツアーの参加者数は、38名（平成24年）から191名（平成29年）に増加。

○郷土料理（こもけ団子汁）は、多くの方から好評を得ており、訪問者の増加に貢献（ガイド料や農産物販売での収益は平成28年に比べ平成29年は倍増）。

応募団体からのアピール・メッセージ

五郷は、五感に訴えかける魅力ある場所です。ぜひ一度、魅力ある五郷へ足をお運びいただいて、感じとってください！　お待ちしております。

HP：http://gogou.jp　　Fb：五郷里づくりの会

観音寺市大野原町井関538-4　Tel：0875-54-3984

6 香川県高松市（たかまつし）

雇用　医療・福祉　女性・高齢者の活躍

特定非営利活動法人　香川県社会就労センター協議会（かがわけん）

～障がい者と農業者の架け橋として～

平成30年度　農作業支援強化研修会（琴平町）

キャベツの搬出作業（さぬき市）

経　緯

○障がい者福祉施設では、受託作業の減少や自主製品の販売不振などから収益が減少し、一人あたりの平均工賃が10,000円台/月と低迷。

○農家では、高齢化が進む中、農繁期の労働力不足などにより、経営規模を縮小する農家が増加しており、労働力確保が急務。

取組内容

○平成23年から、NPO法人香川県社会就労センター協議会に「共同受注窓口」を設置し、農作業請負のマッチングによる農福連携の取組を開始。

○障がい者福祉施設と農家のマッチングや調整等には専任のコーディネーターを配置。現在、施設外就労が可能な、延195施設が参加。

活動の効果

○障がい者ができる仕事が県内の農家に浸透。
○施設利用者の工賃は年々増額。利用者も「やればできる」という体験から働く意欲が湧き、更に働く姿が認められ、一般就労へと進む者も現れた。
○農家からの作業依頼は年々増加。農家において障がい者はなくてはならない存在となった。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後も、関係者との意思疎通を図り、農作業に参加可能な福祉施設を増やしていくとともに、他県からの視察等の受入や各種セミナー等に出席して、全国に香川県の「共同受注農作業システム」による農福連携の取組を広げていきたい。

高松市前田東町585番地5　Tel：087-813-1420

7 香川県観音寺市（かんおんじし）

自然・景観・伝統・継承

食育・教育

観音寺市（かんおんじし）　本村（ほんむら）地区環境保全会

～先人から受け継ぐ環境や資源を後世へ～

子供会、長寿会などによるコスモスの種まき

秋祭りの山車とコスモス

経　緯

○農業者の減少や高齢化に伴う農業用施設の維持管理を、地区全体で行うために設立。

○本村地区の自然、環境、資源や伝統文化の大切さを後世へ継承してもらうことを目的に、地区内の各種組織を構成員として活動を行う。

取組内容

○景観形成のためのコスモス、ひまわり、綿花を子供会、長寿会、営農集団を中心に栽培することにより、世代間の交流を促進 。

○5つの池、開水路及び農道の環境整備、EM菌利用による生ごみの堆肥化及び水路の水質浄化活動。

○伝統文化遺産の保持、継承。

活動の効果

○世代を越えた活動により、地域内の交流が活発となり、住民同士の連帯感、協力感を生み出すことができている。また、共用設備の補修や更新等による長寿命化で、防災・減災にもつなげている。
○自然、環境、資源、伝統文化の保持、継承を通じて地域の活性化につなげている。

応募団体からのアピール・メッセージ

自然、環境、資源、伝統文化を守り次世代に継承するとともに、住みやすく楽しい地域づくりを、これからも実践していきます。

8 香川県さぬき市

鳥獣被害防止

豊田協定

～集落ぐるみの獣害対策で、田畑を次世代へ～

集落全景

共同家庭菜園

経　緯

○平成8年頃にイノシシ、サルによる農作物被害が集落全体で認められるようになり、農業者の中には、作付けを諦める者も現れる。
○獣害の影響から集落の中央部に位置する基盤整備田でも休耕地となるところが発生。
○平成17年に集落や農用地の存続に危機感を覚えた有志数人が「地域ぐるみでの獣害対策」を唱える。

取組内容

○共同家庭菜園の運営、ストップゾーンの設置。
○集落を囲む侵入防止柵の設置、集落内の農家・非農家を含めた全員による維持管理。
○効率的な捕獲、獣肉処理の実施、営農集団による農作業受託の推進。

活動の効果

○平成23年度以降、野生鳥獣による農作物被害がほとんど認められなくなり、集落内の休耕地120aを復田。
○県内外の獣害対策を講じようとする自治体、団体等の先進事例となり、県内外から多くの視察を受入。
○捕獲野生獣の獣肉普及に加え、酒米など地域特産物の導入を図ることで、農業所得を向上。

応募団体からのアピール・メッセージ

これからも、「集落ぐるみ」で、魅力ある集落を次世代へ引き継ぐ取組を継続したいと考えています。

さぬき市大川町田面2094-2　Tel：090-1574-6448

9 香川県善通寺市（ぜんつうじし）

地元食材の提供・活用 | 6次産業化 | その他（農地の保全・新規就農者等の育成）

公益財団法人　善通寺市（ぜんつうじし）農地管理公社

～未来に残そう大事な農地～

公社で新規就農生を育成、当市で就農

もち性はだか麦「ダイシモチ」

経　緯

○善通寺市が平成8年に全農家アンケートを実施。後継者不足、農地の保全管理が喫緊の課題であることが明確となったため、市とJAで耕作放棄地対策に特化した善通寺市農地管理公社を設立。
○地域農業の活性化のため、農業塾による農業就農者等の育成、もち性はだか麦「ダイシモチ」による地域特産物づくりの取組を開始。

取組内容

○耕作不能農家から委託を受け、いつでも農地に活用できるよう公社職員が保全管理を行い、地域の担い手に斡旋し、農地の集積と流動化を担う。
○善通寺市外出身者で新規就農を目指す若者を市が研修生として受入れ、公社が育成に係る業務を受託。
○公社が事務局となり「善通寺市ダイシモチ普及協議会」を発足。地元加工業者を中心にパン、麺等の商品開発を推進。

活動の効果

○善通寺市とJAにより、県下初の農業公社として設立。農地の保全管理と集積のほか、担い手育成に貢献。また、「ダイシモチ」の特産品化に取組み、商標登録によるブランド化により、地域農業の活性化と地域ブランドの向上に寄与している。

応募団体からのアピール・メッセージ

農地の保全とともに担い手への農地流動化を進める。また、讃岐もち麦「ダイシモチ」の生産拡大、商品開発・販路拡大に取り組み、地域ブランド化の確立を図りたい。

善通寺市文京町2-1-1　Tel：0877-63-6344

10 香川県高松市（たかまつし）

自然・景観・伝統・継承

食育・教育

香川県三郎池土地改良区（かがわけんさぶろういけ）

～三郎池のクリーンアップ作戦と生き物発見～

ため池東側護岸部の活動状況

クリーンアップ作戦で捕獲した生き物

経　緯

○平成3年度に県営利活用保全施設整備工事を実施し、堤防エリアを公園整備し地域の憩いの場とした。

○近傍にある日山（ひやま）の登山道の整備と相まって利用者は増加し、ゴミ対策と景観保全をしなければならない状況であった。

取組内容

○平成22年から3年に1度の池干しのために落水するときにあわせてクリーンアップ作戦を実施。

○平成25年からクリーンアップ作戦に合わせ、小学生の校外授業として三郎池に住む生物について淡水魚の専門家を招き説明会を実施。

活動の効果

○一番の効果は、水質の改善がみられるようになった。

○貯水量170万トンを超える三郎池の多面的機能を地域住民に理解してもらうとともに、緊急時の避難経路等について三郎池の存在を意識した計画が策定された。

○池干し時に外来種の生物を駆除することにより、三郎池に生息する在来種の保護を推進している。

応募団体からのアピール・メッセージ

クリーンアップ作戦を実施しているものの、手の届いていない部分がまだあることから、その部分について対策を講じなければならないと考えている。

高松市三谷町2286番地3　Tel：087-889-0005

11 香川県高松市（たかまつし）

自然・景観・伝統・継承

香川町浅野（かがわちょうあさの）土地改良区

～天下の奇祭「ひょうげ祭り」継承と文化交流～

ひょうげた姿で高塚山から新池を目指し行進

祭りのクライマックス。神輿を新池に投げ込む

経　緯

〇ひょうげ祭りの起源は新池を築造した矢延平六の功績を称えるもので、三百余年前から継承。

〇新池にまつわる行事は水利組合を中心に催されてきたが、平成9年からひょうげ祭り保存会で祭りを開催、浅野土地改良区で法要と神事を行うこととなった。

取組内容

〇新池にゆかりのある矢延平六を悼み毎年法要を行うとともに、新池築造の功績を後世に伝えていく。また、伝統行事であるひょうげ祭りを後世に伝えるだけでなく全国、世界に広げていく。

〇神事、ひょうげ祭りは9月第2日曜日に開催し、法要は前日の土曜日に行う。

〇ひょうげ祭りをテーマとした写真展を開催。

活動の効果

〇法要・神事・ひょうげ祭りの伝統文化を継承することで、地域住民の交流を図るとともに、香川県の伝統文化として全国、海外へと発信。

〇祭りの起源や意義を知ってもらうことで、矢延平六、香川県の水事情・歴史に関心を持ってもらう機会となっている。

〇年々見物人も増加し、地区の行事としてだけでなく香川県の名物となってきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

三百余年前から先人が守り続けてきた伝統行事を大切に絶やすことなく後世に伝承するとともに、他の地域との交流を深め地域の活性化を目指していきたい。

12 香川県観音寺市（かんおんじし）

自然・景観・伝統・継承　食育・教育

大野原（おおのはら）地域資源保全会

～子供会と行う環境保全活動で住民交流向上～

親子で安全を確認しながら清掃

投げ捨てられた空き缶を集めるこどもたち

経　緯

○地域の国道、県道沿いの水路や農地に空き缶等の投げ捨てが多くその対応に苦慮。

○平成26年度から多面的機能支払事業に取り組み、地域の環境保全活動を行うことにより地域住民が交流・連携することを目的とするとともに、子供会も含めた清掃作業を行い、地域を守る人間形成を目指すこととした。

取組内容

○地域内にある子供会に呼びかけ、子供たちを中心に保護者が付き添い、ゴミ拾い、カーブミラーの清掃等の環境保全活動を実施。

活動の効果

○子供たちが地域の大人たちと活動を行うことで顔見知りになり、挨拶ができるようになった。大人もどんな子供が住んでいるのかがわかり、声かけするなど防犯上の効果が見られ、地域での関係が良好になってきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

豊稔池土地改良区の受益地域で多面的機能支払交付金活動を実施している。活動組織を中心に他地域と連携協力し、この活動が旧大野原町全体に広がるようPRしていきたい。

13 香川県琴平町（ことひらちょう）

自然・景観・伝統・継承 | 食育・教育 | 学生・若者の活躍

苗田東（のうだひがし）環境保全の会

～子供達と行う環境保全活動で故郷意識の向上！～

子供たちと看板・案山子設置

子供たちと清掃

経　緯

○昭和42年に構造改善事業で基盤整備を行い農業中心の地域づくりをしていたが、世代交代、少子化が進み住民の交流が薄らぎ、伝統行事の継承が難しくなっていた。

○交流が盛んな地区づくりには経費が必要なことから、農地水環境保全対策に取り組むことになり、子供達を交えた環境保全活動の取組を始めた。

取組内容

○子供会と道路沿いの空き缶等のゴミ拾い、環境保全ポスターの作成、設置を実施。

○9月に子供たちが作成した環境保全ポスターを琴平町役場ロビーに展示。展示後、防水加工し、青年部を中心に地区住民で、ゴミの投げ捨ての多い幹線道路沿いに設置。

活動の効果

○子供を中心としたゴミ拾いやポスター作成、設置などの活動に保護者が一緒に参加することにより地区住民の連携が密になった。また、地区の伝統文化である獅子舞に子供達が進んで参加することで、伝統文化の継承につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地区の伝統文化である獅子舞は、金刀比羅宮、町のイベント等で披露し、町内で注目されている。また、地区住民の結婚披露宴で獅子舞でお祝いすることもある。

琴平町苗田93番地　Tel：0877-75-6026

14 香川県小豆島町（しょうどしまちょう）

食育・教育　鳥獣被害防止　女性・高齢者の活躍

東條（ひがしじょう）地域農業集団

～小豆島で、子供と一緒に心豊かなむらづくり～

子供たちの田植えの様子

産地交流市場「ファームステーション安田の郷」

経　緯

○基盤整備を契機に農地の受託者による集落営農組織を設立。
○安全・安心なお米を消費者に提供するため、全構成員がエコファーマーの認定を受け、減農薬・減化学肥料栽培に着手。
○地域住民とともに農村環境保全活動を展開。自らの農地は自らが守るがモットー。

取組内容

○米の減農薬・減化学肥料栽培に取り組み、安全で安心なブランド米「安田の郷」を販売。
○農作業体験の実施とともに、産直市場・農家食堂を開設、収穫祭の開催など生産者と消費者の「顔の見える」結びつきを強化。
○地域住民と共に地区全体に獣害対策用柵を設置し箱罠も考案、製作。
○高齢者対策として、稲作の共同防除にドローンを利用。

活動の効果

○独自ブランド米「安田の郷」は、毎年早期に完売し、購入希望に追いつかない状況。
○米やさつまいもの農業体験や農産物を利用した食育活動を通じ、保育所・幼稚園・小学校等子供たちの情操教育に貢献。JAとの協同活動も展開。
○安田東條地区以外でも米を栽培し、荒廃地の拡大を防止。90歳以上の農業者も元気に。
○獣害対策に取り組み、自作の箱罠などにより100頭以上のいのししを捕獲。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業者の高齢化と地域の過疎化が進む中、農地を守り次世代へ継承するとともに、地域内外の交流促進により「活気あふれる心豊かなむらづくり」を目指しています。

小豆島町安田甲845-3　Tel：0879-82-2333

15 香川県東かがわ市

ジビエ　雇用　6次産業化

中国四国農政局 ディスカバー農山漁村の宝 選定地区

五名活性化協議会

～五名に根ざした、五名愛に満ちた五名活性化～

産直市「五名ふるさとの家」

里山整備で伐採した木材を薪に加工する様子

経　緯

○地域住民は山間地で、少子・高齢化により急激に人口が減少していることに危機感を共有。

○平成17年に五名小学校の廃校を契機に、小学校の跡地利用と地域の活性化を目指す協議会（当時 五名活性化対策委員会）を立ち上げ、持続可能な地域活動に取り組む。

取組内容

○里山整備に伴って出る木材を、しいたけの原木や薪、炭などに加工して販売するとともに、獣害対策で捕獲したイノシシも食肉加工し、五名ジビエとして販売。

○移住希望者と地域の人との交流の場を設け、五名への移住を地域全体で支援。

○五名女性部が中心の産直市「五名ふるさとの家」を運営。

○五名三大祭りの開催。

活動の効果

○里山整備で発生する木材を加工（6次産業化）した、しいたけ原木や薪、炭などは東かがわ市のふるさと納税の返礼品として好評を博している。

○地域での仕事が生まれ、里山を中心とした林業従事者が増えることで、里山が活性化。

○若者を中心とした移住人口の増加により、地域コミュニティの活性化につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の強みを活かした具体的な取組みについて、長・短期ビジョンを策定し、小学校跡地の活用を含め、地域の人達の意見を反映した地域活性化に取り組んでいきます。

東かがわ市五名1400　Tel：0879-29-2660

16 香川県東かがわ市

インバウンド | 農林漁業・農山漁村文化体験 | 地元食材の提供・活用

株式会社ソルトレイクひけた

～ハマチ養殖発祥の地　県魚の魅力を最大限に～

ひけた鰤出荷式での解体実演

校外学習による養殖漁業の体験

経　緯

○東かがわ市がハマチ養殖発祥の地「安戸池（あどいけ）」に漁業体験施設「マーレリッコ」を設ける際に、管理運営を担う組織として設立。

○養殖漁業の体験や地域ブランド「ひけた鰤」を活用した食育教室を展開することにより、施設への集客を図ることとした。

取組内容

○養殖体験施設、食堂、管理釣り堀を運営し、香川県等とも連携し、東かがわ市の推進する着地型観光の一翼を担う。

○地域イベントに積極的に参加し、施設のPRに努める。

○スタッフが香川県認定の「お魚一匹食べよう伝道師」等の資格を取得し、幅広い年齢層に魚食教育の普及に努める。

○地域ブランド「ひけた鰤」の解体実演による販促活動を実施。

活動の効果

○活動がTVやマスコミ等に取り上げられることが増え、体験学習館の知名度が向上し、多くの小学校等の校外学習の受入れにつながっている。

○口コミ等により団体向けハマチ解体実演は自治会、婦人会からの依頼が増加し、出張しての魚食教育、実演等も行うようになった。

○インバウンドの外国人からも好評を得ている。

応募団体からのアピール・メッセージ

外国人の来館者が増加しつつあるため、今後は英語での対応もできるようにし、海外への情報発信を進めながらインバウンド客の受皿として発展させていきたい。

東かがわ市引田4373　Tel：0879-33-2800

17 香川県高松市（たかまつし）

地元食材の提供・活用　6次産業化　その他（畜産農家と耕種農家の連携）

有限会社　赤松牧場（あかまつ）

～地域に根差し、地域と人を動かす耕畜連携～

堆肥の撹拌施設

ジェラートショップ

経　緯

〇経営の規模拡大と安定化を図るため、平成15年に法人化。また、平成22年に自家製牛乳を利用したジェラートショップを開設し、6次産業化にも取り組む。

〇平成27年から、米価下落の対策として耕種農家と畜産農家の連携による稲WCSの取組を開始。

取組内容

〇赤松牧場が堆肥を供給した圃場で、耕種農家が稲WCSを栽培し、生産した稲WCSを飼料として畜産農家へ供給。平成28年から本格的に取り組むため、WCS生産組合を設立。平成29年には耕種農家14名で15haまで栽培面積を拡大。

〇平成22年に自家製牛乳を利用してジェラートを製造・販売するジェラートショップを開店。

活動の効果

〇耕種農家は土づくりや労力軽減、収益の確保に繋がり、畜産農家は飼料コストの低減と飼養規模の拡大も可能となり、相互にメリットを確保。

〇耕畜連携の活動の中、地域一体となって農業を盛り上げる気運の高まり。

〇ジェラートショップの経営を通じて消費者とのコミュニケーションが生まれ、消費者目線に立った牛舎環境の整備や安全・安心な生乳生産に活かされている。

応募団体からのアピール・メッセージ

堆肥を利用した耕畜連携の取組を他地域に広げるため、農家との情報交換の場で活動をPRしたり、関係機関の協力を得ながら循環型農業の普及推進を行っている。

高松市香南町由佐2240　Tel：087-879-3446

18 香川県高松市（たかまつし）

インバウンド　自然・景観・伝統・継承　食育・教育

特定非営利活動法人しおのえ

～心のふるさとを見つける旅！～

流しそうめん体験

いのししの丸焼き体験

経　緯

○過疎化・高齢化の進む故郷の活性化、地域おこしや環境保護を目的として、平成14年にNPO法人「しおのえ」を設立。

○平成17年の市町合併を契機として、各種の体験活動を本格的に展開。

取組内容

○構成員が運営するホテルを拠点に、観光客や県内の小学生を対象に、うどん打ちやこけ玉づくりなど各種体験メニューを企画・実施。

○ジビエの有効活用と「命」をいただくことを伝えるため「いのしし」の丸焼きを提供。

○地元高齢者が体験メニューの指導者として活躍。

○台湾の旅行会社が体験プログラムを採り入れたツアーを企画し、5回実施。

活動の効果

○地元高齢者を指導者に起用することで、生きがいづくりの場や各世代・地域内外の人たちの交流の場となっている。

○地元ならではの体験メニューを企画し、現地集合・現地解散する着地型観光を定着させ国内外の観光客が増加。

○県内小学校の体験宿泊学習（うどん打ちなど）が増加。

応募団体からのアピール・メッセージ

過疎高齢化の進む故郷の魅力をお伝えしたいと思い、活動をしています。
うどん打ち体験、そば打ち体験、竹細工体験など地元のおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に挑戦してみませんか。

高松市塩江町上西乙1118-8　Tel：087-893-1105

19 香川県高松市（たかまつし）

農林漁業・農山漁村文化体験 | 6次産業化 | 女性・高齢者の活躍

さぬきファームプロジェクト協議会

～農家と地域女性で農業体験からの起業化物語～

親子によるいちご大福作り体験

にんにく料理教室の様子

経　緯

○農家と消費者は日常において直接繋がりがないが、双方とも知りたがっており、繋がりが欲しいと思っていた。

○そこで、各農家と企画した農業体験や加工品開発などを通じて、双方を知る、繋がる機会をつくっていければと考えた。

○また、それが農家の売上向上や雇用の場の創出に繋ればと思った。

取組内容

○平成25年度から協議会の農家の協力のもと、田植え体験やみかん狩りなどの農業体験事業と、料理教室などを実施。

○加工品開発も手がけ、平成28年度にいちご大福などのフルーツ大福の商品化に成功。平成29年3月に各種のフルーツ大福工房をオープンし、4月に法人化。現在6名の女性スタッフと各農家が連携し、農業体験事業と大福製造販売に従事している。

活動の効果

○消費者が農家と直接触れ合うことで、農家の苦労や食の大切さを学び、一方農家も消費者が希望する商品を知ることができ、双方が学び合える場所ができた。

○農業体験の収益が向上し、自力で継続性を持って運営できる意識とスキルを身につけることができた。また、フルーツ大福の製造販売の起業化により、子育て中のお母さんたちの就労支援に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

ファン会員の増加を目指します。また、さらなる参加者の増加による農家体験収益やフルーツ大福販売増、そして子育て中の母親の雇用も増やす予定です。

高松市飯田町656-1　Tel：087-813-0489